

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@hotmail.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



慈雲

時韋提希

見佛世尊

自絶瓔珞

拳身投地

とき いだいけ ぶつせそん
時に韋提希、仏世尊を見たてまつりて、自
ようらく た
ら瓔珞を絶ち、身を挙げて地に投ぐ。
あ
みずか

【『観経』の言葉】

韋提希夫人が頭を挙げる時、目の前に釈尊がお立ちになっており、これから大乘の教えが説かれることを天人たちが喜んでいたのでした。夫人は釈尊を見て、まだ身に付けていた装飾品の飾りを自ら引きちぎるようになり、体を釈尊の御前に投げ出したのです。夫人は本心では釈尊を願っていたけれど、まだ飾りなどを身に付けていたのです。それをはからずも世尊が目の前に立たれたのを見て、恥じてかたがた捨てたのです。釈尊自ら来てくださった事は親切心や同情からではありません。韋提希という一人の女性の心に芽生えたものを「それがお前の求道心だぞ」と気づかせることになったのです。

今月は

釈迦如来楞伽山

為衆告命南天竺

龍樹大士出於世

悉能摧破有無見

の四句を学びます。

「釈迦如来、楞伽山にして、衆のために告命したまわく、南天竺（南インド）に、龍樹大士世に出でて、ことごとく、よく有無の見を摧破せん。」と読みます。

正信偈は大きく二つの部分に分かれています。一つ目は依経段といつて經典によつて書かれていた部分です。それは阿弥陀仏が誓いを立て本願を起こし、私たちが往生する浄土を建立されたことから始まり、その本願やお浄土はどのような特徴があり、私たち衆生をどのように救つてくださるか説かれています。

二つ目は依釈段といい、その本願の教えによつて救われた人たちが自らの体験を通して、その時代の人々と共に喜びたいという思いから、それぞれの問題意識によつて本願の教えを受け取つて伝えて

くださっている部分です。具体的には親鸞聖人はインド・中国・日本の三方国にわたつて七人の高僧を取り上げておられます。それを三国七高僧といいます。

それは、親鸞聖人にとつては単に先覚者というだけではなく、お釈迦様が説かれた阿弥陀仏の本願の教えを自分のところまで次々と伝えてくださった仏さま方として仰いでおられます。その第一番目が今回学ぶ龍樹菩薩です。

龍樹は西暦一五〇年頃、インドのバラモン階級の家生まれです。バラモンというのはいわゆる僧侶階級ですが、龍樹は初めから仏教を信じていたわけではありません。恵まれた家庭で育つた龍樹は、若い時に悪ふざけが過ぎ、友人が死ぬという体験をします。それから彼は心を入れ替えて大乘仏教の教えを学びなおすのです。このエピソードから高僧と崇めている人でも私たちが同じ人間だということとがわかります。その後の仏教界に遺した功績はとても大きく、中でも中観、空の思想を説いたことが特筆されます。

そのような龍樹菩薩のことを親鸞聖人は正信偈で上のようにならうたつておられます。これは楞伽經の中に説かれている伝記に基づいています。この部分はいわゆる

釈尊の予言であります。

「ある時、釈尊が楞伽山で大眾に向かつて次のように言われました。南インドに龍樹という大徳が出て、迷いの元である、有るとか無いという我執を破る教えを説かれるであろう」というものです。親鸞聖人の教えは奇跡とか迷信とかを信じない教えであると聞いておりますが、このような予言を引用されるのはどういう意味があるのでしょうか。

釈尊というと私たちは仏教を説いた最初の人だと思つています。それに間違いありませんが、仏教そのものは釈尊が作り出したものではありません。釈尊も仏教の長い歴史（それを今、仏教と区別して仏道という事にします）の中から生まれられたのです。

つまり釈尊より前から仏道はあり、それを釈尊が自ら体験され、教えとして後世に伝えてくださったのです。ですから、仏教は釈尊で終わるのではなく必ず後を継ぐ者が出て来るといふ事を宣べている經典を採用することで、龍樹菩薩もその大きな歴史の中から生まれた仏であると云おうとされているのです。

【易行風】

最近、自殺者の報道が絶えません。ご本人には耐え難い苦痛が多かったのでしょうか、もったいないような気がします。「人身受け難し、いますでに受く」折角貴重な命を頂いたのに…。

以前は、「死ぬだけの思いがあれば、何でもできるのに」と思っていました。数年前から少し考えが変わりました。「死ぬのでは無く、消えたいのではないか」「それ程、追い詰められていたのではないか」と。

私は悲しいことの中にも明日の喜びを探すようにしています。喜びは人それぞれですから、ご自身で探す以外はないのですが、その手助けをして下さる方は周りにおられるはず。「昔は」と言うと怒られるかもしれませんが、良く言う世話好き。悪く言うとおせっかい。このような方々が大勢おられました。これが、地域での和（コミュニケーション）を生み出し、人の自殺という咄嗟の行動を防いでいたのではないのでしょうか。また、この和の中で育ったからこそ、悲しいことの中にも明日の喜びが見つけれられるようになったと思います。

最近、ある方と話をしている頭の下がる思いをしました。

「あなたは、人に真宗を勧めるとき、どうやって勧めますか？」

と問われました。そして、私は色々なことを答えたのですが、それに対して質問が続きます。それにもまた答えたのですが、それに対して質問が続きます。この繰り返しを続けたあと、私は答に困ってしまいました。

そのとき、仰ったのは、

「南無阿弥陀仏をただ信じていればよい。」の一言でした。心から頭の下がる思いでした。仏教学や真宗学を学んでいるうちに、知識ばかり身につけて、一番大切な事を忘れていたのです。

「しょうじょうしいんゆいしんじん正定之因唯信心」

帰敬式の誓いの言葉で、忘れないと誓ったのに忘れてしまっていたのです。

なんとも情けない。

しかし、これを、今、まさに、思い出させて頂いたのは、阿弥陀様のお力、他力なのだ。

人は忘れる者です。人は間違える者です。

人は迷う者です。

だからこそ、必要な時に必要な場所で、常に阿弥陀様は救って下さっているのではないのでしょうか。

それを実感した出来事でした。

同じように、「あなたは、人に自殺をやめるよう説得するとき、どうやって説得しますか？」

そうです。理屈をこねても自殺を考えている人にはつうじないのではないのでしょうか。自殺直前の心境の方に、「南無阿弥陀仏を信じて…」と言っても、その言葉さえ聞く余裕は無いかもしれませんが、理屈で説得するより遥かに良いような気がします。

人は必ずしも死を望んでいるとは信じたくありません。

「人身受け難し、いますでに受く」

仏法聞き難し、いますでに聞く」

折角貴重な命を頂き、仏法を聞く機会を得た私は、おせっかいと思われても、それを伝えて行きたいと思います。

【お彼岸のお知らせ】

三月二十日（月・祝）

春の彼岸会法要を勤修します
午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話 藤井 洋氏

（真宗大谷派 閑唱寺住職）

四時 慈雲会総会

総会終了後 お斎

【慈雲会総会のお知らせ】

三月二十日（月・祝）彼岸会法話終了後

議題 平成二十八年年度 行事・事業報告

平成二十八年年度 決算報告

平成二十九年年度 事業計画説明

平成二十九年年度 予算説明

その他

【お磨きのお知らせ】

彼岸会法要に先立ち、仏具のお磨きを
します。皆様ふるってご参加下さい。

三月十六日（木）午前九時より

【瑞蓮寺 同朋の会】

来年度の同朋の会の日程が決まりましたので、お知らせします。

平成二十九年 四月一日（土）

初参り式準備

五月十三日（土）二時

「暮らしの中の仏教用語・京言葉④」

六月 三日（土）二時

「暮らしの中の仏教用語・京言葉⑤」

七月一日（土）二時

「暮らしの中の仏教用語・京言葉⑥」

九月二日（土）一時半

「暮らしの中の仏教用語・京言葉⑦」

十月七日（土）詳細は後日お知らせ

遠足 男山・石清水八幡宮

十一月二十八日（火）詳細後日お知らせ

東本願寺 報恩講団体参拝

十二月九日（土）詳細は後日お知らせ

第三回写真コンテスト

【暮らしの中の仏教用語】

第一回「退屈」

一般的な意味とはだいぶ違うのですが、「退屈」は仏教用語で、読み方はかわらず「たいくつ」のままです。

「退屈」の「退」は退く、後戻りするの意味です。

「退屈」の「屈」はかがみこみ、屈するの意味です。

「退屈」とは仏道に屈し、仏道の歩みが退いて失われる事を意味します。

自分自身の限界を感じたり、先が見えなくなったりすると「もういいや」と諦めて歩みを止めてしまいます。生きるなかで、壁にぶつかり屈した後戻りしてしま

って歩めなくなると言う事があります。仏教で言う退屈とはそういういった人間の挫折の姿を表した言葉です。

暇をもてあまして、退屈したら「退屈」について考えてみて下さい。退屈する時間があるのですから。

~~~~~

【編集後記】

今年最初の『慈雲』如何でしたでしょうか。今回から同朋の会でお話している

「暮らしの中の仏教用語」を短くご紹介いたします。以外な言葉が仏教用語だったり

しますので、お楽しみ下さい。今年もお寺の行事や様子をお伝えして行きますので、どうぞよろしくお願いいたします。

長塩浩史